

## 今期業況天気図






### 今期業況天気図

期間：令和7年10月～12月（売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較）





















全業種総合の天気図は「小雨」で、総合業況DIは▲22と、前期▲22から変わらなかった。  
業種別では、小売業・卸売業が▲27（前期8ポイント増）、製造業は▲28（前期差5ポイント増）と改善。飲食業・サービス業が▲18（前期差3ポイント減）でやや減少、建設業は▲19（前期差7ポイント減）は悪化した。

前期で悪かった業種が改善し、良かった業種が悪化したため、業種間の景況差が縮まり、全業種が小雨となった。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 5	▲ 8	▲ 2	▲ 27	1
採算	▲ 21	▲ 24	▲ 19	▲ 29	▲ 18
仕入単価	▲ 59	▲ 62	▲ 63	▲ 68	▲ 54
販売単価	18	16	15	31	17
従業員	27	19	32	17	31
資金繰り	▲ 17	▲ 18	▲ 13	▲ 23	▲ 17
今期業況 （総合判断）	▲ 22	▲ 28	▲ 19	▲ 27	▲ 18
今期業況 天気図					

業況天気図凡例					<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。
快晴  DI値 31以上	晴れ  DI値 30～11	薄曇り  DI値 10～▲10	小雨  DI値 ▲11～▲30	雨  DI値 ▲31以下	

### 参考）今期業況天気図の推移

	全産業	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
3四半期前 令和7年1月～ 3月期					
2四半期前 令和7年4月～ 6月期					
1四半期前 令和7年7月～ 9月期					
今期 令和7年10月～ 12月期					

## 今期業況天気図






### 今期業況天気図(小規模事業者)

(商業・サービス業従業員5名以下、その他の業種20名以下)

期間: 令和7年10月～12月(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較)

小規模事業者のみの全業種総合のDIは▲25(前期差1ポイント増)で天気図は「小雨」。

製造業は▲29(前期差16ポイント増)と大幅な改善が見られた。小売業・卸売業は▲41(前期差3ポイント増)で微増。飲食業・サービス業は▲21(前期差4ポイント減)でやや減少。建設業は▲22(前期差10ポイント減)で悪化した。小売業・卸売業の小規模事業者の回復が遅れている。






	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲11	▲12	▲3	▲46	▲7
採算	▲26	▲24	▲23	▲44	▲24
仕入単価	▲60	▲64	▲63	▲73	▲53
販売単価	12	7	11	22	12
従業員	18	12	28	0	18
資金繰り	▲22	▲23	▲16	▲37	▲22
今期業況(総合判断)	▲25	▲29	▲22	▲41	▲21
今期業況 天気図					






### 今期業況天気図(小規模事業者以外の中小企業)

期間: 令和7年10月～12月(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較)

全業種総合のDI値は▲16(前期差1ポイント減)とほぼ横ばいで、天気図は「小雨」のままである。

小売業・卸売業は▲9(前期差15ポイント増)が大幅に改善した。建設業は0(前期差11ポイント増)で前期に引き続き改善が続いている。飲食業・サービス業は▲14(前期差1ポイント減)でほぼ変わらず、製造業は▲26(前期差10ポイント減)で悪化した。小規模事業者と異なり小売業・卸売業の景況改善が進んでいる。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	5	▲3	7	▲3	13
採算	▲13	▲23	7	▲12	▲9
仕入単価	▲58	▲60	▲67	▲62	▲55
販売単価	30	28	47	41	25
従業員	43	28	60	38	51
資金繰り	▲9	▲11	7	▲6	▲10
今期業況(総合判断)	▲16	▲26	0	▲9	▲14
今期業況 天気図					

業況天気図凡例				
 DI値 31以上	 DI値 30～11	 DI値 10～▲10	 DI値 ▲11～▲30	 DI値 ▲31以下






<<景観観測調査>>  
前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。  
「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。






次期見通し天気図

次期見通し業況天気図

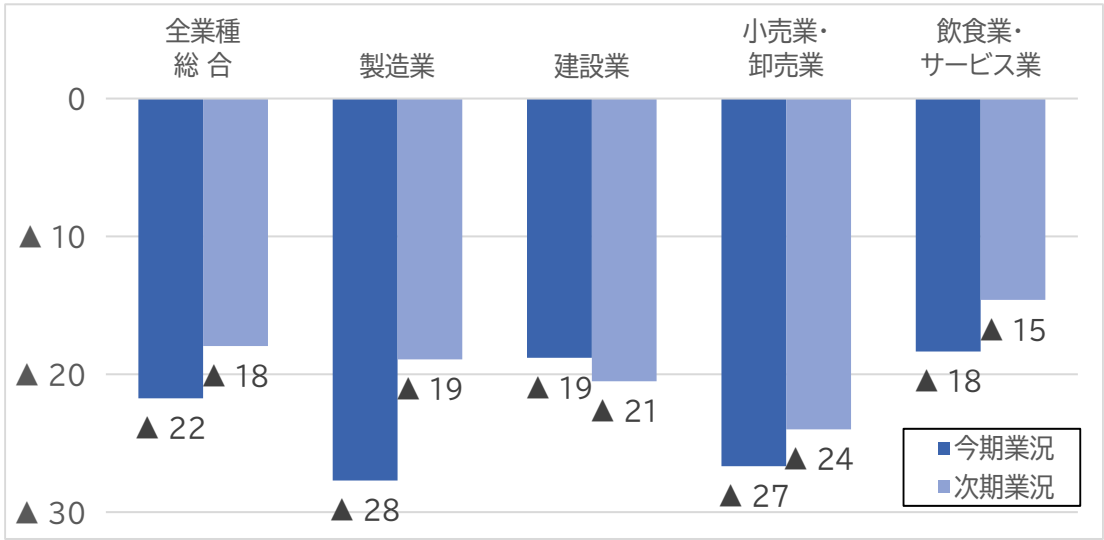
令和7年10月～12月見込(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しの天気図は、▲18(今期差4ポイント増)で、天気図は「小雨」の見込み。  
産業別にみると、製造業は▲19(今期差9ポイント増)と改善の見通し。小売業・卸売業は▲24(今期差3ポイント増)、飲食業・サービス業は▲15(今期差3ポイント増)も小幅の改善と予想されている。建設業は▲21(今期差2ポイント減)とやや悪化する見込みである。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲12	▲18	▲14	▲23	▲4
採算	▲18	▲20	▲13	▲28	▲15
仕入単価	▲43	▲44	▲50	▲47	▲40
販売単価	12	9	9	27	11
従業員	23	15	27	23	26
資金繰り	▲16	▲21	▲15	▲17	▲13
次期業況 (総合判断)	▲18	▲19	▲21	▲24	▲15
次期業況 天気図					

業況天気図凡例					<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。
快晴  DI値 31以上	晴れ  DI値 30～11	薄曇り  DI値 10～▲10	小雨  DI値 ▲11～▲30	雨  DI値 ▲31以下	

参考) 今期と次期の業況DI



## 次期見通し天気図






### 次期見通し業況天気図(小規模事業者)

(商業・サービス業従業員5名以下、その他の業種20名以下)

令和8年1月～3月見込(売上・採算・資金繰り・仕入単価・販売単価・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しは▲24(今期差1ポイント増)で、天気図は「小雨」の見込み。

産業別にみると、飲食業・サービス業は▲17(今期差4ポイント増)、製造業は▲27(今期差2ポイント増)と小幅の改善の予想。小売業・卸売業は▲41(今期差±0ポイント)で変わらず、建設業は▲25(今期差3ポイント減)と小幅の悪化の見込みである。






	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 16	▲ 25	▲ 16	▲ 32	▲ 7
採算	▲ 21	▲ 24	▲ 16	▲ 41	▲ 18
仕入単価	▲ 46	▲ 48	▲ 48	▲ 56	▲ 41
販売単価	10	1	5	27	12
従業員	16	10	23	7	17
資金繰り	▲ 20	▲ 29	▲ 17	▲ 29	▲ 16
次期業況(総合判断)	▲ 24	▲ 27	▲ 25	▲ 41	▲ 17
次期業況 天気図					






### 次期見通し業況天気図(小規模事業者以外の中小企業)

令和8年1月～3月見込(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しは、▲8(今期差8ポイント増)で、天気図は「薄曇り」の予測。

産業別にみると、製造業は▲9(今期差17ポイント増)で大幅な改善を見込む。建設業は7(今期差7ポイント増)、小売業・卸売業は▲3(今期差6ポイント増)、飲食業・サービス業は▲11(今期差3ポイント増)と、全ての業種で改善する見込みである。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 5	▲ 9	0	▲ 12	▲ 1
採算	▲ 11	▲ 15	7	▲ 12	▲ 11
仕入単価	▲ 39	▲ 38	▲ 60	▲ 35	▲ 38
販売単価	16	18	33	26	9
従業員	35	22	60	41	39
資金繰り	▲ 8	▲ 11	0	▲ 3	▲ 8
次期業況(総合判断)	▲ 8	▲ 9	7	▲ 3	▲ 11
次期業況 天気図					

業況天気図凡例				
 DI値 31以上	 DI値 30～11	 DI値 10～▲10	 DI値 ▲11～▲30	 DI値 ▲31以下

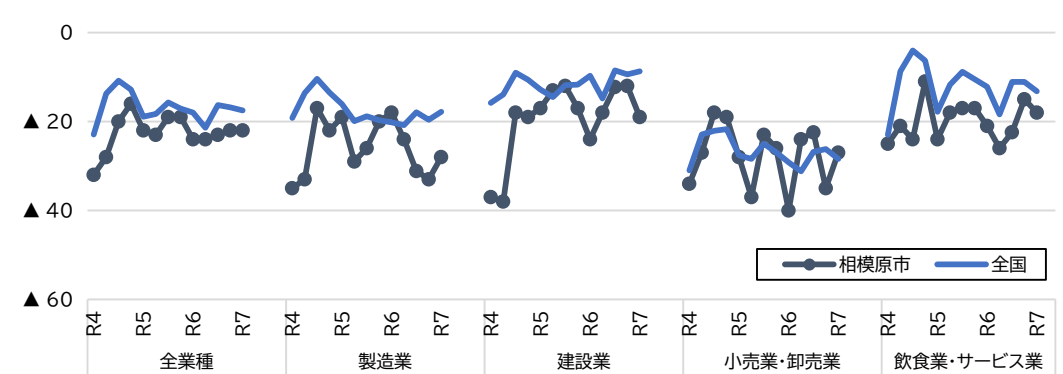
#### <<景気観測調査>>

前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。  
「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。

## 業況DI(前年同期比)の推移

全産業の業況DIは、今期は▲22(前期差±0ポイント)で、前期と変わらなかった。  
産業別にみると、小売業・卸売業は▲27、製造業は▲28といずれも前期から改善した。飲食業・サービス業は▲18、建設業は▲19と小幅の悪化であった。  
全国と比較すると、小売業・卸売業は全国と同様な景況であった。その他の業種は全国よりもやや低い状況が続いている。

(令和4年10-12月期～令和7年10-12月期、前年同期比)

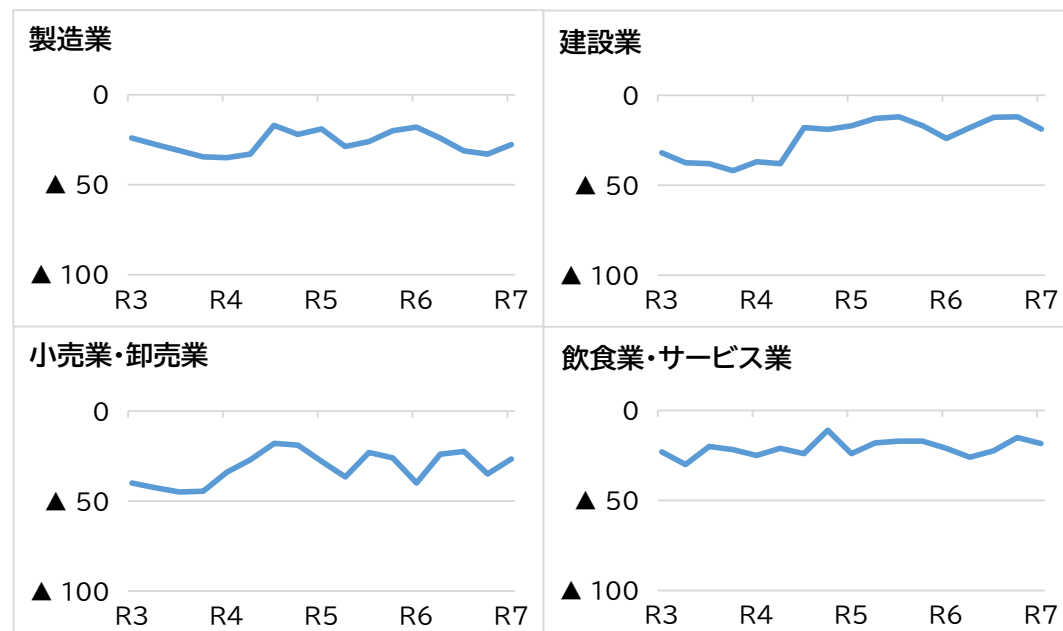


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「業況判断DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※業況DIについて、当所では「総合判断」、中小企業庁は「業況(自社)」を質問項目としている

## 参考)業況DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



## 業況DI(特徴的なトピックス)

産業別に寄せられた特徴的なトピックスは以下のとおりである。

### 【製造業】

- ・全般的には不況感がありますが、営業努力により顧客の増加に伴い売上が大幅にUPしました。今期2社の倒産をむかえ、不良債権が発生しました。【プラスチック加工業】
- ・受注量も増え、景気的には好転していると感じるが、依然人手不足である。新政権やトランプの影響が今後どのようになるのかが見通せない。【自動機械の設計・製造・販売】
- ・メインの半導体業界の景気が悪い。その他の事業でカバーしている。【原子力計装装置、半導体製造装置、各種自動機製造、販売】
- ・円安が再び進行しており、収益性の悪化が問題。【電子応用装置の設計・製造、防犯機器の販売】

### 【建設業】

- ・新規顧客との取引が始まった事もあり、仕事の問口が広がった様に感じます。【住宅リフォーム】
- ・DX活用した効率化の構築。【建設・土木、埋蔵文化財発掘調査】
- ・発注者、元請業者共単価を見直してくれず、請ける側は諸経費ばかり増える。これが収益率の低下につながっていると感じる。【緑地管理(樹木の剪定、除草等)樹木の伐採、外構工事】
- ・有休制度、週休二日制、人員不足、建設業には全て厳しい状況。今後、小企業は潰れる一方。小企業には支援を国がするべき。生保世帯が増え、人口が減り続ける。【土木工事】

### 【小売業・卸売業】

- ・普段の生活は節約傾向で、行楽や娯楽への使用金額は意外と出している様な気がします。【食肉】
- ・ネット販売におされ、店はウィンドーショッピング化している。【玩具小売】
- ・個人消費の低迷によりEコマースの売上不振が続いている。製造、仕入単価も上昇しているが、価格に転換できず、厳しい経営状態である。【健康食品の小売、卸売】
- ・市の学校給食入札制度化により、多くの零細事業者が手を引いています。他県市町の業者が市の給食を賄っていることに疑問を感じます。【生鮮青果物卸売】

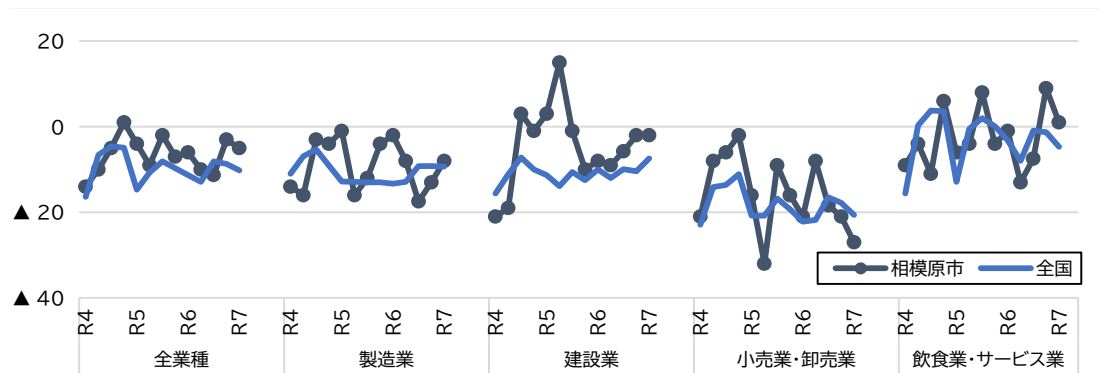
### 【飲食業・サービス業】

- ・全体として景気感は引き続き慎重で、物価上昇に伴う派遣スタッフの生活コスト増・働き方の多様化が顕著です。一方で、受発注は概ね安定し、人材ニーズは即応性の高い人員配置が求められ、当社としてはスタッフ定着のために待遇・フォロー体制の強化を進めています。【労働者派遣業、機械設計受託及び請負業】
- ・輸送費の上昇について社会全体の理解が必要。【機械部品、建設機械、設備、OA機器などの輸送】
- ・来店客数が減ってきている。いままでにない位です。【カット、カラーパーマ、ヘアエステ、着付け】
- ・利用者数が上がったものの介護給付費が上がらないため物価高騰に追いつかない。【介護事業】
- ・海産物の価格上昇(2倍～3倍上昇の物もあり)。【ラーメン店】

## 売上DI(前年同期比)の推移

全産業の売上DIは、▲5(前期差2ポイント減)とほぼ変わらなかった。  
産業別にみると、製造業は▲8と改善した。飲食業・サービス業が1と低下したが、0近くを保った。建設業は▲2と変わらなかった。小売業・卸売業が▲27と、改善は遅れている。  
全国と比較すると、飲食業・サービス業と建設業は全国の水準を上回っている。小売業・卸売業は全国よりやや低い。

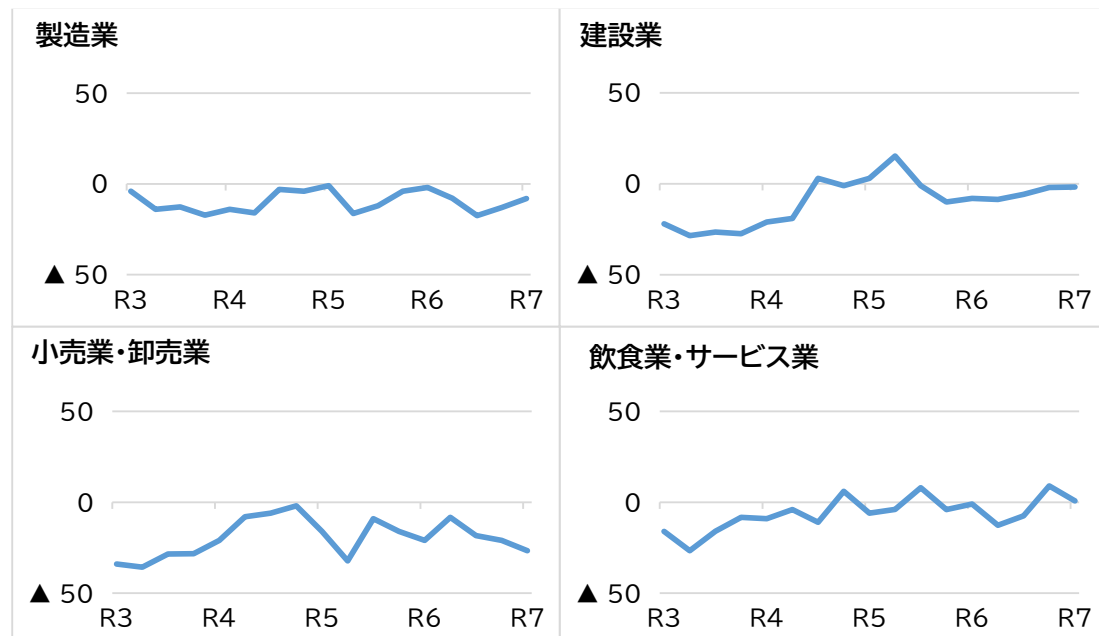
(令和4年10-12月期～令和7年10-12月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「売上額DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

## 参考) 売上DI(前年同期比)の長期推移(業種別)

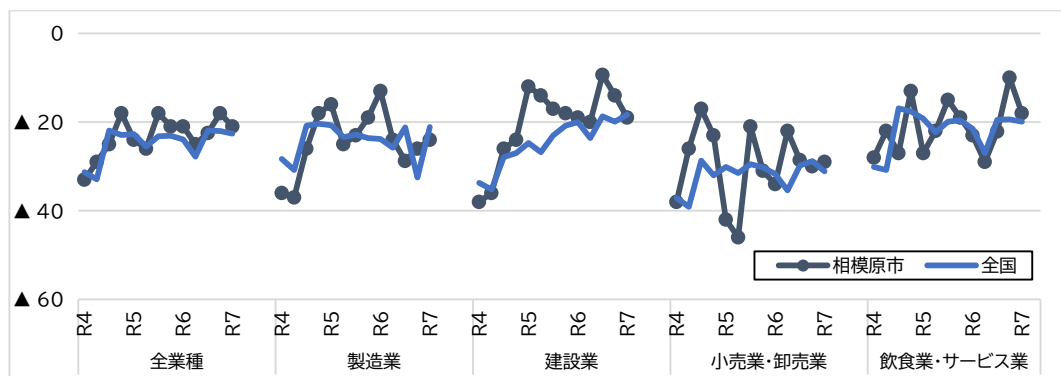


## 採算DIの推移

### 採算DI(前年同期比)の推移

全産業の採算DIは、▲21(前期3ポイント減)で、前期から小幅の悪化であった。  
産業別にみると、製造業は▲24、小売業・卸売業は▲29と前期並みであった。飲食業・サービス業は▲18、建設業は▲19と悪化した。  
全国と比較すると、全業種で同様な水準となった。

(令和4年10-12月期～令和7年10-12月期、前年同期比)

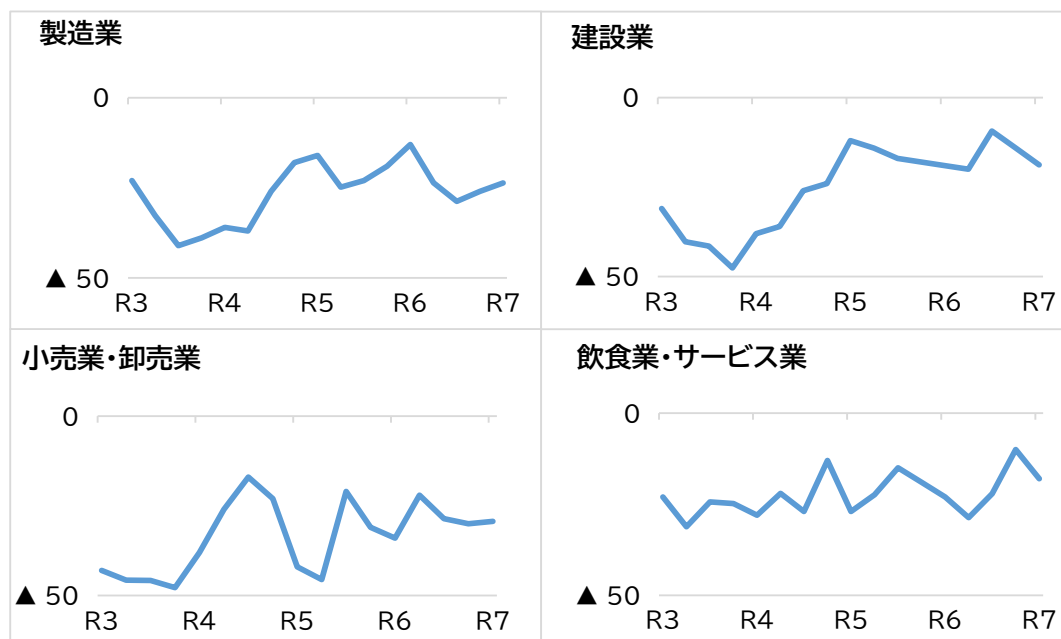


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※採算DIについて、当所では「採算」、中小企業庁は「経常利益」を質問項目としている

### 参考) 採算DI(前年同期比)の長期推移(業種別)

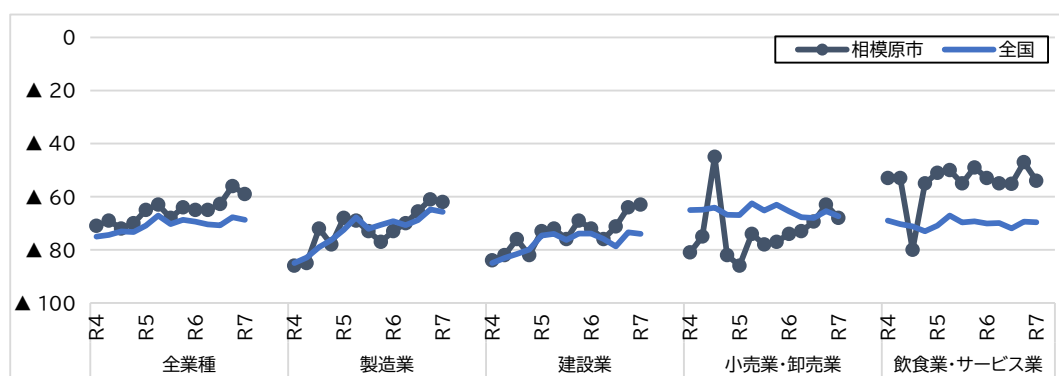




## 仕入単価DI(前年同期比)の推移

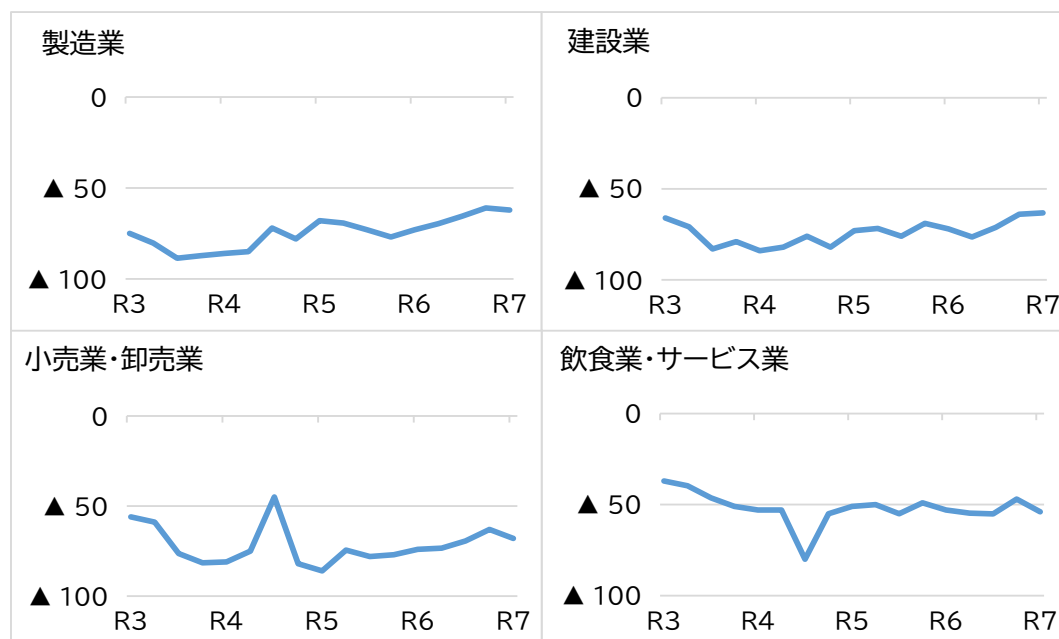
全産業の仕入単価DIは▲59(前期差3ポイント減)で、やや減少した。  
産業別にみると、建設業が▲63、製造業が▲62と前期並み、飲食業・サービス業が▲54、  
小売業・卸売業は▲68と小幅の減少であった。  
全国と比較すると、建設業と飲食業・サービス業で全国より高い水準となった。

(令和4年10-12月期～令和7年10-12月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「原材料・商品仕入単価DI」を使用。  
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用  
※仕入単価DIについて、当所では「DI=下落—上昇、中小企業庁は「上昇—低下」で算出。  
比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

## 参考) 仕入単価DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



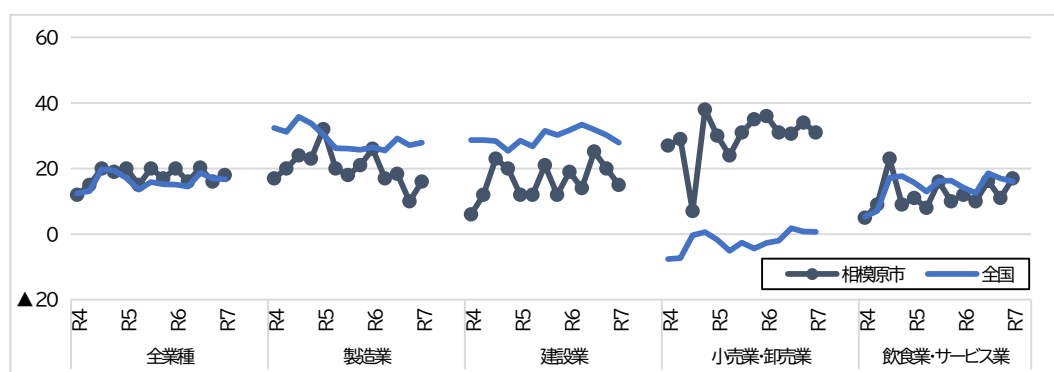
## 販売単価DI(前年同期比)の推移

全産業の販売単価DIは、18(前期差2ポイント増)と、前期並みで推移した。

産業別にみると、飲食業・サービス業は17、製造業は16でやや上昇、小売業・卸売業が31、建設業が15と小幅の減少であった。

全国と比較すると、製造業と建設業は全国よりも低い水準が続いている。小売業・卸売業は、全国よりもかなり高い状態が続く。

(令和4年10-12月期～令和7年10-12月期、前年同期比)

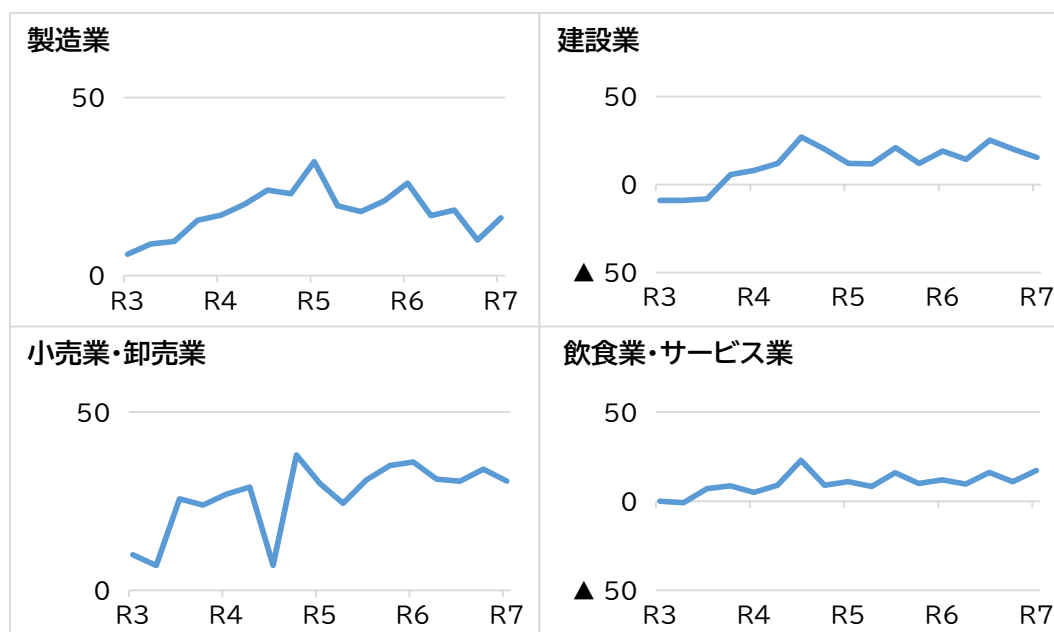


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「販売単価・客単価DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※建設業については、全国値は日本商工会議所「早期景気観測商工会議所LOBO/建設業令和7年12月」分類の値を使用

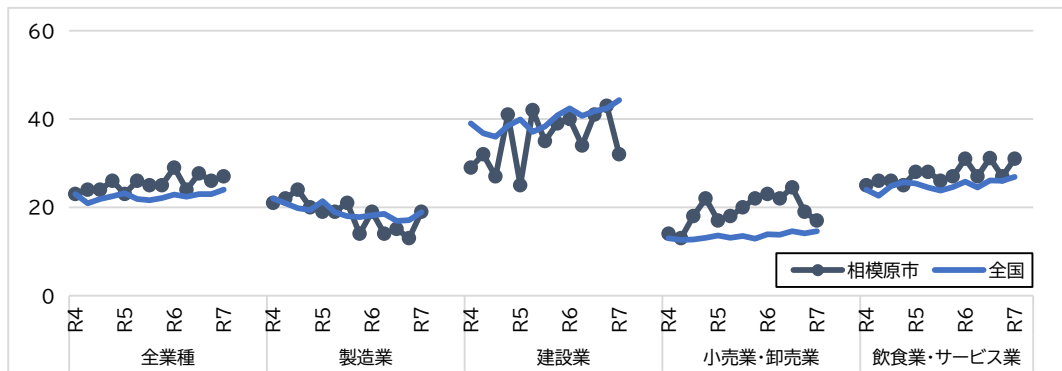
## 参考) 販売単価DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



## 従業員DI(前年同期比)の推移

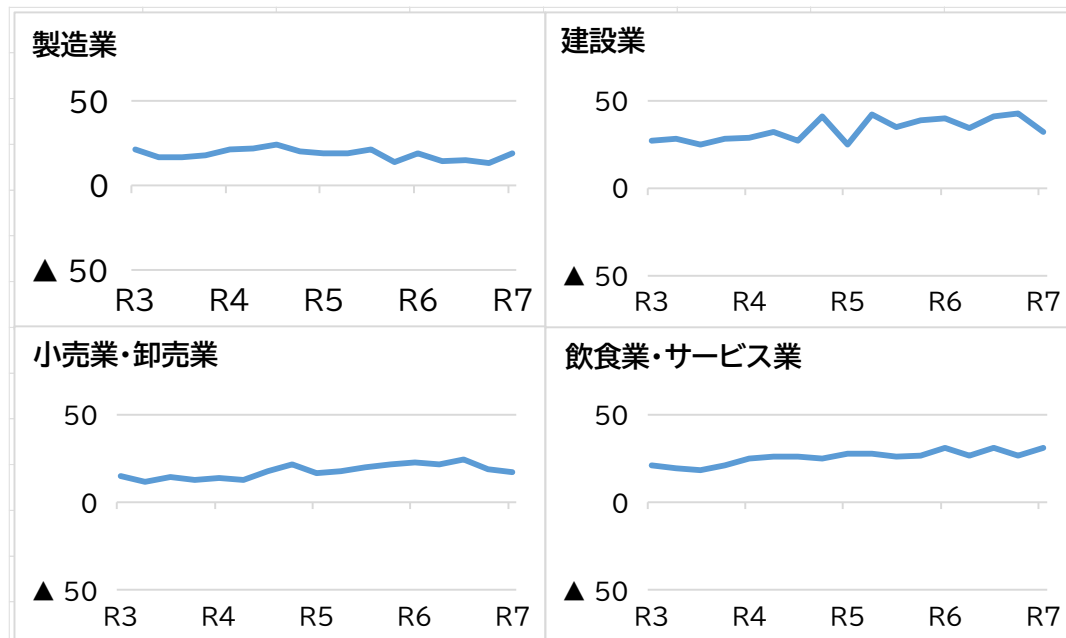
全産業の従業員DIは、27(前期差1ポイント増)で、前期とほぼ変わらなかった。  
産業別では、飲食業・サービス業は31、製造業は19とやや改善した。小売業・卸売業が17と前期並みで、建設業は32と悪化した。  
全国と比較すると、建設業で当市の方が、人手不足感が緩和している。

(令和4年10-12月期～令和7年10-12月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「従業員数過不足DI」を使用。  
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用  
※従業員DIについて、当所では「前年同期比」、中小企業庁は「今期の水準(過去との比較ではない)」を調査  
※従業員DIについて、当所では「DI=不足ー過剰、中小企業庁は「過剰ー不足」で算出。  
比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

## 参考) 従業員DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



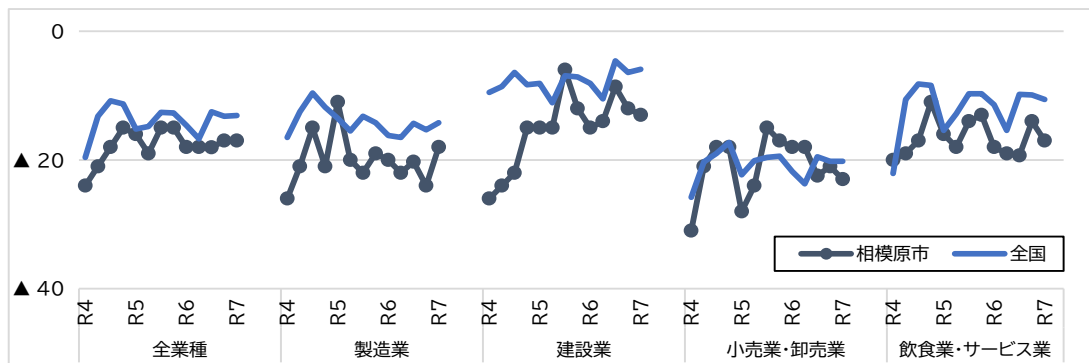
## 資金繰りDI(前年同期比)の推移

全産業の資金繰りDIは、▲17(前期差±0ポイント)で、横ばいだった。

産業別にみると、製造業は▲18で改善が見られた。それ以外の業種で、建設業は▲13、飲食業・サービス業は▲17、小売業・卸売業は▲23とほぼ変わらなかった。

全国と比較すると、すべての業種において、当市のほうが全国よりやや低い水準が続いている。

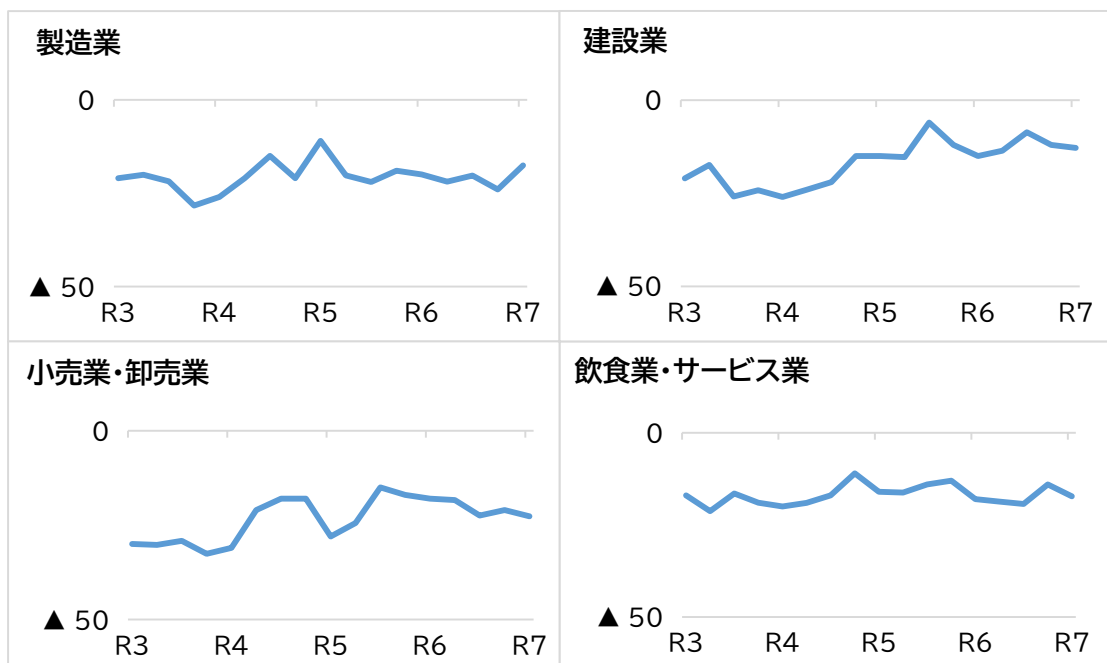
(令和4年10-12月期～令和7年10-12月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

## 参考) 資金繰りDI(前年同期比)の長期推移(業種別)



集計表(景気観測調査)

			今期(R7.10~R7.12)				次期見通し(R8.1~R8.3)			
			売上:増加 採算:資金、総 合:好転 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不変	売上:減少 採算:資金、総 合:悪化 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値	売上:増加 採算:資金、総 合:好転 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不変	売上:減少 採算:資金、総 合:悪化 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値
製造業	売上	サンプル数	41	54	53	148	28	65	55	148
		構成比	28	36	36	▲ 8	19	44	37	▲ 18
	採算	サンプル数	21	71	56	148	22	74	52	148
		構成比	14	48	38	▲ 24	15	50	35	▲ 20
	仕入単価	サンプル数	2	52	94	148	3	77	68	148
		構成比	1	35	64	▲ 62	2	52	46	▲ 44
	販売単価	サンプル数	34	104	10	148	22	117	9	148
		構成比	23	70	7	16	15	79	6	9
	従業員	サンプル数	33	110	5	148	27	116	5	148
		構成比	22	74	3	19	18	78	3	15
	資金繰り	サンプル数	9	104	35	148	7	103	38	148
		構成比	6	70	24	▲ 18	5	70	26	▲ 21
	業況	サンプル数	16	75	57	148	21	78	49	148
		構成比	11	51	39	▲ 28	14	53	33	▲ 19
建設業	売上	サンプル数	31	53	33	117	22	57	38	117
		構成比	26	45	28	▲ 2	19	49	32	▲ 14
	採算	サンプル数	10	75	32	117	14	74	29	117
		構成比	9	64	27	▲ 19	12	63	25	▲ 13
	仕入単価	サンプル数	0	43	74	117	1	57	59	117
		構成比	0	37	63	▲ 63	1	49	50	▲ 50
	販売単価	サンプル数	26	83	8	117	22	83	12	117
		構成比	22	71	7	15	19	71	10	9
	従業員	サンプル数	39	77	1	117	33	83	1	117
		構成比	33	66	1	32	28	71	1	27
	資金繰り	サンプル数	4	94	19	117	4	92	21	117
		構成比	3	80	16	▲ 13	3	79	18	▲ 15
	業況	サンプル数	11	73	33	117	13	67	37	117
		構成比	9	62	28	▲ 19	11	57	32	▲ 21
小売業・卸売業	売上	サンプル数	14	27	34	75	14	30	31	75
		構成比	19	36	45	▲ 27	19	40	41	▲ 23
	採算	サンプル数	8	37	30	75	7	40	28	75
		構成比	11	49	40	▲ 28	9	53	37	▲ 28
	仕入単価	サンプル数	3	18	54	75	6	28	41	75
		構成比	4	24	72	▲ 68	8	37	55	▲ 47
	販売単価	サンプル数	28	42	5	75	26	43	6	75
		構成比	37	56	7	31	35	57	8	27
	従業員	サンプル数	16	56	3	75	19	54	2	75
		構成比	21	75	4	17	25	72	3	23
	資金繰り	サンプル数	4	50	21	75	3	56	16	75
		構成比	5	67	28	▲ 23	4	75	21	▲ 17
	業況	サンプル数	7	41	27	75	8	41	26	75
		構成比	9	55	36	▲ 27	11	55	35	▲ 24
飲食業・サービス業	売上	サンプル数	78	113	76	267	61	133	73	267
		構成比	29	42	28	1	23	50	27	▲ 4
	採算	サンプル数	37	145	85	267	34	158	75	267
		構成比	14	54	32	▲ 18	13	59	28	▲ 15
	仕入単価	サンプル数	5	113	149	267	4	153	110	267
		構成比	2	42	56	▲ 54	1	57	41	▲ 40
	販売単価	サンプル数	67	179	21	267	48	201	18	267
		構成比	25	67	8	17	18	75	7	11
	従業員	サンプル数	84	182	1	267	74	188	5	267
		構成比	31	68	0	31	28	70	2	26
	資金繰り	サンプル数	13	195	59	267	14	204	49	267
		構成比	5	73	22	▲ 17	5	76	18	▲ 13
	業況	サンプル数	30	158	79	267	28	172	67	267
		構成比	11	59	30	▲ 18	10	64	25	▲ 15
全業種 総 合	売上	サンプル数	164	247	196	607	125	285	197	607
		構成比	27	41	32	▲ 5	21	47	32	▲ 12
	採算	サンプル数	76	328	203	607	77	346	184	607
		構成比	13	54	33	▲ 21	13	57	30	▲ 18
	仕入単価	サンプル数	10	226	371	607	14	315	278	607
		構成比	2	37	61	▲ 59	2	52	46	▲ 43
	販売単価	サンプル数	155	408	44	607	118	444	45	607
		構成比	26	67	7	18	19	73	7	12
	従業員	サンプル数	172	425	10	607	153	441	13	607
		構成比	28	70	2	27	25	73	2	23
	資金繰り	サンプル数	30	443	134	607	28	455	124	607
		構成比	5	73	22	▲ 17	5	75	20	▲ 16
	業況	サンプル数	64	347	196	607	70	358	179	607
		構成比	11	57	32	▲ 22	12	59	29	▲ 18

## 集計表(トピックス)

製造業
2023年以降、売上高利益率とも低下。特に売上高が全盛期の1/3程に低下している。新規の取引先も見つからず、雇用調整助成金などを利用し休業しながら凌いでいる。【機械部品製造】
7-9月と特に不変予定。【電気機械器具製ワイヤーハーネス製造】
トランプ2.0になったとたんに受注が減少した。【板金加工物の製造販売】
メインの半導体業界の景気が悪い。その他の事業でカバーしている。【原子力計装装置、半導体製造装置、各種自動機製造、販売】
安価での仕入を求める顧客の増加。【製造業】
依然として部材、加工費などの上昇が問題(物価高)。【工業用自動機の開発・製造・販売】
円安が再び進行しており、収益性の悪化が問題。【電子応用装置の設計・製造、防犯機器の販売】
円安が進みすぎて、海外からの輸入品が高額に。正直、国内零細企業の製造業にとっては株価上昇なんて何の意味もなさい。【精密板金加工全般】
円安の影響により、ステンレスやアルミ等の輸入材料が高騰していること。【トラックの荷台架装および修理】
加工部品の価格を上げると、相積もりで負けて、受注出来ない。【金属部品切削加工】
営業戦略の一環ではあるが、仕入単価の上昇分を100%製品価格に転嫁していないので、その差額分の解消に苦慮しつつ、現場スタッフの新たな気づきなどで、対応できている。ただし、いつまでも続けることはできないので、次年度の価格改定に向けた布石を講じていかなければならない。【電池ガasket】
機械加工業においては、仕事量の少なさが慢性化しているように感じます。【金属機械加工】
客先からの注文が滞っている上、新規案件がごく少ない。経済全体より落ち込んできている様に感じる。【電子回路基板設計、製造、販売】
景気がわるい。【製缶板金】
景気状況により、仕事の一時中断等による、売り上げ減少。人不足で人を入れても、仕事の均衡が取れないとお金が出てく一方。【設備設計】
原材料の高騰で加工費(実質利益)の減少。【製造業】
顧客の営業環境・先行き見通しの低下が感じられる。【精密機械、部品製造販売】
高卒者及び営業職の採用が困難である。【臨床検査薬の開発、製造、販売】
最低賃金の上昇が、じわじわきてきている。【段ボール製造販売】
採算悪化傾向にあり、設備投資ができない。老朽化した設備を修理しながら使用しており、効率化の改善も難しい状況です。【建設機械製品(シールド機、スチールセグメント)】
採用苦戦。【金額製品加工】
材料代よりも工具や消耗品(チップ・ドリル等)の価格が上げ止まらない状況が続いている。商社からは今後とも上がっていくと聞いている。販売先の1社(シェアは後順位)は販売価格の折衝を行ったが、応じられなかった。価格折衝を応じてもらえる先とそうではない先が出ている。【自動車部品製造業】
仕事量の減少。【エンボステーパーピング】
仕入をはじめ光熱費等のコスト増にて収益率の改善見込めず。【精密板金業】
仕入単価上昇。【段ボール製造販売】
自動車生産の減少。政治的、中国問題。【切削工具製造及び再研磨】
若手人材の定着が難しい、幹部社員が確保できない。【産業機械製造業】
受注案件が思ったより伸びないのと仕入れ価格の上昇。【ガス配管製造】
受注減少。【運輸に付帯する製造業】
受注量も増え、景気的には好転していると感じるが、依然人手不足である。新政権やトランプの影響が今後どのようなものになるのかが見通せない。【自動機械の設計・製造・販売】
受発注の状況。【シルク印刷】
従来の取引先からの受託が大きく減少し、最近数年の取引先からの受注が後半伸長するとともに、需給の変動幅が大きくなったので、リスクを低減する方法を検討している。【各種製品の加工、検査及び包装】
消費の低迷。【ジャズポップコーン、ポップコーン原料豆】
新製品開発で新規販売を開拓する。【通信機器、医療機器、計測機器向けのトランス製造業】
人手不足。【金属製品塗装及び金属加工】
設備投資が減少しているようにおもえる。【ソフト設計、(PLC、タッチパネルの設計)、ハード設計(電気回路)、制御盤・配電盤製作、配線工事】

先行き不透明。【シャフト・ベアリングケース等】
先行き不透明感から設備投資予算が減少しており、見積もりを出しても発注に至らない状況が多い。【自動化・省人化・協人化設備の相談役及びそれに伴う電気関係の設計製作、修理】
全般的には不況感がありますが新社長(娘)の営業努力により顧客の増加に伴い売上が大幅にUPしました。今期2社の倒産をむかえ、不良債権が発生しました。(25万+8万)=33万。【プラスチック加工業】
大きい仕事が増え、長期案件になるので先払いの増加により資金繰りの調整に悩んでいる。【各種自動制御装置の設計、製作、工事】
大手製造企業ほどコストダウン要請が激しい。【精密加工、製造業】
中国の景気停滞の影響で東南アジアの設備投資の意欲が減退している。その影響で売り上げが低迷する要因となっている。【高速モータの製造販売】
注文の減少。【金型プレス加工】
電気代高騰。【プラスチック加工】
独自の発明商品が次第に業界に認知されだしているが、営業の拡販パワーが不足している。【ランナー加圧装置、ダイカスト製品の品質向上支援装置】
日産自動車の関東圏からの撤退により、自動車部品関連の先行きが全く無くなった。【工業用試作モデルの制作、自動車部品検査治具の設計、製作】
年金受給者の買い控えを感じます。【和菓子の製造販売】
発注が、長期展望がなく、その日暮らしのようになっています。【光通信周辺機器製造販売】
半導体市場の一部では、調整が続いています。その影響が少し出てきている。【半導体製造装置設計】
不変。【トラックシャーシ改造、架装、艀装】
物が動いていない。大手になればなるほど販売単価が上がらない。人手不足は慢性化している。受注量が益々減っている。【段ボール製函紙器一式・包装資材】
物価の上昇、人材不足。【工業用プラスチック製品の製造・販売】
米国を発端とする関税問題(貿易)。【樹脂装飾品の製造及び販売】
米国関税のために米国向け需要が低迷している。【産業用モータ制御装置の製造販売】
米国関税の影響が一部の取引先に徐々に始めており、予断を許さない状況である。また仕入原材料も僅かながら値上がりしており、従業員との給与昇給分と合わせて顧客向け価格に転嫁できるか見極めが急務。【製罐、板金加工、据え付け業】
米中問題、関税による直接的、間接的影響あり。【パッシブ除振台・アクティブ除振台・防振装置・各種防振ゴム・制振材・吸音材、除振工事・防振工事・制振工事・除振コンサルタント・振動測定及び解析】
毎年1年通して変動があるので不安。【金属加工】
民間工事施工遅延による、電線需要の減少がみられたが、徐々に回復している。【電力機器、配電機器、免震・制振・制音デバイス、精密デバイス】
来年5月以降、MFTBC中型国内向けが中止。800万円/月減少見込み。【ねじ、ボルト製造(車輛用)】
令和8年4月以降、受注状況が悪化する見込みがあること。【ワイヤーハーネス加工】

<b>建設業</b>
物価上昇による影響が一部に残るものの、雇用・所得環境に改善の動きが見られ、景気は緩やかに回復した。建設業界においては、政府建設投資は底堅く推移し、民間企業投資も旺盛な投資状況が継続している。一方、技能労働者の不足や時間外労働の規制の影響や物価高の影響で事業中断の判断をせざるを得ない案件も散見される。【土木、建築工事請負業・不動産事業】
人材不足は仲間が高齢化している為、先々に不安がある。【厨房設備工事】
80t~150tクラス減少、15t~40tクラス増、金物工事減少。【鉄骨建築加工業】
DX活用した効率化の構築。【建設・土木、埋蔵文化財発掘調査】
下請けの工事が大半なのですが、材料費がどんどん高騰する中発注単価が変わらず収益が急激に悪化している。【外構工事】
求人募集を出しても、問い合わせが少ない。【総合建設業】
原材料の高騰、人件費の高騰、下請けの高騰が発生しているが、販売価格に転嫁できていない。値上げが難しく経営困難であります。【住宅基礎工事】
公共・準公共工事の発注は堅調だが、原材料費、人件費の高騰、人材不足、円安定着などにより、先行きについて楽観できない状態が続いている。【建設、遺跡発掘、リフォーム、清掃、土木事業】
材料の上昇・従業員不足。【塗装工事業・防水工事業】



公共物件を中心に受注してきたが、人材不足により、民間工事の受注を制限している。今後のことを考えると、民間工事割合も増やさないといけないと考える。【電気工事業】
材料費の値上げ。【電気工事業】
仕事材。【機械組立】
市場変動のサイクルが早く、予測がつかない状況であります。公共工事及び民間工事ともに今後、受注減少の見込みであり。収益が減少の見込みであります。【土木・建築の施工】
取引先(地元工務店等)の仕事減少は年々感じています。そのうえ個人消費者が食料品やその他全ての価格が高くなっているの、消費を抑えている感じです。壊れて使えないなどにならないと仕事につながらない状況です。一般企業や個人の方は価格についてそれ程注文をつけてくることはないですが、役所仕事の方が価格を下げられます(請負会社が役所から言われるそうで)。【建具工事】
取引先によって工事の数の差が、かなりひらきがある。【仕上げ内装工事】
受注減少。【冷却設備工事】
受発注の状況、施工管理者の不足、仕入単価及び各費用価格の上昇。【管工事・電気工事】
従業員が不足。【水道工事】
新規雇用が難しく、顧客のニーズに答えられない。【電気通信工事】
新規顧客との取引が始まった事もあり、仕事の間口が広がった様に感じます。【住宅リフォーム】
進みすぎた働き方改革に不安を感じる。【電気工事】
人員不足。【電気設備工事】
人件費【消防設備業】
人材の応募は来るが、採用に至らない。そこまで高望みしているとは思わないが、働く人のモチベーションがわからないし、責任感が薄すぎる気がする。つまりこの国の教育があまり良くないと感じている。相模原だけでも変えて欲しいと願っている。【修繕工事】
人材確保が難しい。【空調設備工事】
人材不足が懸念されます。特に20～30代の若手の人材の材用が難しい状況です。【外装リフォーム塗装防水】
人手不足。【給排水衛生設備工事、空調換気設備工事】
人手不足。【網製建具取付】
人手不足。【電気・空調設備工事】
人手不足。【工場 住宅 事務所など】
地方企業の設備投資の少なさ。都心への集中。【内装工事】
発注者、元請業者共単価を見直してくれず、請ける側は諸経費ばかり増える。これが収益率の低下につながっていると感じる。【緑地管理(樹木の剪定、除草等)樹木の伐採、外構工事】
物価高。【重軽量鉄骨加工取付】
本年度国の補助金があり受注はあるが来年度が心配。【窓・ガラス・エクステリア工事】
万年人手不足による求人コスト垂れ流し。【ポンプ、送風機のメンテナンス】
有休制度、週休二日制、人員不足、建設業には全て厳しい状況。今後、小企業は潰れる一方。小企業には支援を国がするべき。生保世帯が増え、人口が減り続ける。【土木工事】
来季の受注の見通しが悪い。【橋梁補修工事】

<b>小売業・卸売業</b>
ネット販売におされ、店はウィンドーショッピング化している。【玩具小売】
ネット販売中心の社会が小規模路面店を駆逐していくイメージ。【鑑賞魚用品】
衣料品は「食」の次という雰囲気…。【衣料品小売】
円安で輸入の負担が大きくなってきた。【ネット販売、古本、中古雑貨、輸入雑貨】
円安による仕入価格高騰。【介護用食品の開発&販売】
価格は発注先からは申し出がありません。世間の価格を見て値をつけます。【ガソリンスタンド】
海外から輸入していたものが製造終了となり、国内生産品で代替品を準備しなければいけないなど、海外メーカーに振り回されることが続いて、今後の売り上げに影響が出てくると思われる。【エアーコンプレッサー及びその周辺機器の卸売(一部自社で製造)】
競合との価格競争、資材高騰。【液化石油ガス販売】
金価格の高騰、宝飾イベント(量り売りの中止)。【時計・メガネ・宝飾・小売】



景気の後退が心配。中小企業の投資鈍化。【24時間風呂(ろ過装置)の販売・施工・メンテナンス、レジオネラ属菌の対策商品の販売、美濃白川麦飯石の販売、二股石灰華の販売、人工温泉の企画・提案・施工、FRP足湯システムの販売、FRP足湯レンタル】
景気感が感じられない。【たばこ、酒類、くじ】
個人消費の低迷によりEコマースの売上不振が続いている。製造、仕入単価も上昇しているが、価格に転換できず、厳しい経営状態である。【健康食品(玉葱皮茶など)の小売、卸売】
顧客業績、機種毎に生産変動が鮮明で先行不透明。【工業、産業用ゴム、金属製品の卸】
高市政権の可能性に期待です。【各種貿易、生産請負(特殊な物)、小売、卸売】
高年齢化が進み空き家が多くなりました。子供さんが一緒にすまない為、撤去が多いです。【LPガス、灯油、住宅リフォーム】
仕入単価が上がりそれに伴い販売単価を上げているが、利益率が低くそもそも利益があまりない。にも関わらず無駄な経費がかさんで支払いに回せていない。【射出成形機及び周辺機器の卸売り販売や自動機、金型の製造販売】
市の学校給食入札制度化により、多くの零細事業者が手を引いています。他県市町の業者が市の給食を賄っていること(市内の事業者が排除されて)に疑問を感じます。【生鮮青果物卸売】
従業員の給与は毎年上げているが、物価高、増税でおいつかない。【家電・住設・電気工事・空調工事・リフォーム】
従業員の賃金改定による負担、仕入値の上昇による負担で利益が圧迫されている状況。【オフィス用品】
商工会の会費が負担である。減額を希望。【総合小売業】
食品売上は継続して昨年比較で伸びています。衣料、住まいの品が夏から低迷傾向となり現在も続いています。【食品、衣料品、住まいの品】
新規事業が採算ベースに乗る事。資金繰りが厳しい。【中古衣料品、その他中古品、不動産賃貸】
全体的な景気先行き不透明による消費減少。【伝動機器商社】
大手得意先の中国企業による買収の為、取引金額の大幅な減少。【工業用機器、医療機器用レンズ輸出】
冬季商品の販売に影響する降雪の可否。ベースアップによる人件費増額に追従出来ない小売販売の進捗状況。【カー用品販売、車検・法令点検、カーメンテナンス、自動車保険、キャンピングカー製作、新車・中古車販売、トヨタディーラーとの協業】
売上高は下がっているがキャッシュフローも安定しており特に不安はない。【自動車用品販売】
普段の生活は節約傾向で、行楽や娯楽への使用金額は意外と出している様な気がします。【食肉】
嗜好品である花の消費低迷が加速、一方仕入単価は下落転じていて、粗利の増加が見込めてきている【花き】

<b>飲食業・サービス業</b>
5年前に比べて、各種修繕工事が何割も上がっていて、顧客の感覚が追いついていかないこと。【賃貸不動産の管理業務及び不動産、コンサルティング業務】
IT化の待ち遅れによる売上不振、資金が少ないので、従業員もIT化もすまない。コロナでの借入金返済で四苦八苦の状態。【賃貸仲介、売買仲介、管理、リフォーム】
エネルギー価格、労務費上昇等、中小零細企業にとって過酷な経営状況にある。政府が行う施策は、どれも大企業向けの印象で、我々中小企業にとっては、なんらメリットのあるものとは思えない。【産業廃棄物リサイクル】
お客様対応に時間が掛かる。【リフォーム】
グループ事業所の閉鎖による収益減少。【グループ各社の事務代行】
コストの上昇。【医療雑貨、一般雑貨、新聞】
コストプッシュインフレによる物価高、また金利高による高額耐久財の買い控え。【不動産買取再販・仲介・管理】
この数年の中で一番景気が悪い。【餃子専門店】
コロナより悪化がとまりません。【そば、うどん、和食】
ソフトウェア開発に利用してるツール類のサブスクリプション費用が上昇し、利益の圧迫になり始めている。【デザイン業、バーチャルリアリティ関連コンサルティング、アプリ作成】
トランプ関税、米中貿易経済摩擦、日中関係の悪化等により、アメリカ向けや中国向けの輸出は大幅に減少しているものの、お客様の取引先がその他の国々へと変わってきていると同時に輸出量も増加傾向となっているので、弊社への影響は今のところは感じられない。【こん包業】

ネット広告やSNSでの営業に不安。【不動産管理、売買・仲介】
ネット通販やディスカウントショップに我々の専売品が出回る様になった。その為、定価では買わないお客様が多くなった。【一般理美容】
運送業、車庫用地を探しているが、市内の市街化調整地域の価格が高騰しており苦労してます。【運送】
価格の転嫁。【広告代理業】
海産物の価格上昇(2倍～3倍上昇の物もあり)。【ラーメン店】
外食するお客様の減少。【カフェ、レストラン】
各種経費の増加。【金融】
急速なインフレ。【税務士事務所】
かかる固定費に対し売上げが足りていない。【自動車部品】
建設業の顧問先業況不振著しく、倒産有。【社会保険労務士】
原価上昇分を売りに転嫁しづらい。【旅行業】
原材料費の高騰により投資判断が難しい。【マンション、駐車場の貸付】
現場の人手不足ですね。【電気設備のメンテナンス点検】
個人のお客様がほとんどですので、物価高の影響や景気の不安感から、家系出品を抑える雰囲気や厳しい不安定な状況が続いて油断でない状況です。反面…仕入れ価格が値上がりする厳しい状況が続いています。【リラクゼーション業】
個人消費の悪化・変化。【宿泊】
個人消費の機会が減ったように感じる。団体消費は少し改善されているように感じる。飲食店では規模の小さい店舗が団体を取り込めずに集客で苦戦しているように思える。【鉄板による焼き鳥、居酒屋】
個人消費の低迷による売上げ低下、単価を上げたいが難しい。【頭髮のカット、顔剃り等】
雇用を見込むも人材不足を感じます。【その他のサービス業】
雇用状況。【旅客自動車運送事業】
雇用状況。【司法書士業務】
雇用状況は相変わらず厳しいです。時間給を最低賃金より上げての募集でないと応募者の反応はありません。【ビルメンテナンス業(建築物内外の日常清掃、定期清掃、給排水清掃保守及び工事、貯水槽清掃等)】
雇用状況。応募が少ない。【ビジネスホテル】
賃金上昇を謳われ、上げざる得ない状況になっているから、それに伴い社会保険料も上がるため会社としてはメリットがない。【保育事業】
好況感ある。【不動産売買】
購入単価の上昇、新卒不足。【産業廃棄物処理】
高市首相に景気回復を期待している。【産業・一般廃棄物収集運搬、中間処理】
最低賃金改定に伴う損益分岐点の変化。補助金などを積極的に活用したいが、どうすればいいかわからずにいる。【Web型資格試験会場運営など】
採用に益々苦戦している。【人材派遣業】
材料、燃料が高い、輸出の出荷が少ない。【国内・輸出、木箱梱包、パレット製作】
仕入、経費増が止まらない事。【居酒屋、酒とつまみ、食事】
仕入れ単価の上昇。【そば】
仕入れ単価の上昇、各種調味料など目に見えない値上がりが利益率の低下につながっている。それを売上に反映できないのが悩みの種で。【アルコールのつまみ、食事など】
仕入単価の上昇で取得の判断が難しく販売価格のことを考えると(収益率)悪くなっている。【不動産業・物品賃貸業】
仕入値が上昇している為、値上げを考えているが、お客様が減少してしまわないか心配している。【コーヒーの移動販売】
資材高騰。【カーコーティング、钣金塗装】
事業拡大に人材育成が追い付いていない。【障害福祉サービス】
従業員が病気で出勤できない。【産業機械修理業】
従業員の高齢化。【コンプレッサー修理】
従業員不足。【・土地の分譲、販売、仕入、・建売住宅の分譲、販売、・住宅および住宅以外の建築物の建築請負・不動産売買、仲介、賃貸・インテリアコーディネート・リフォーム、エクステリア等

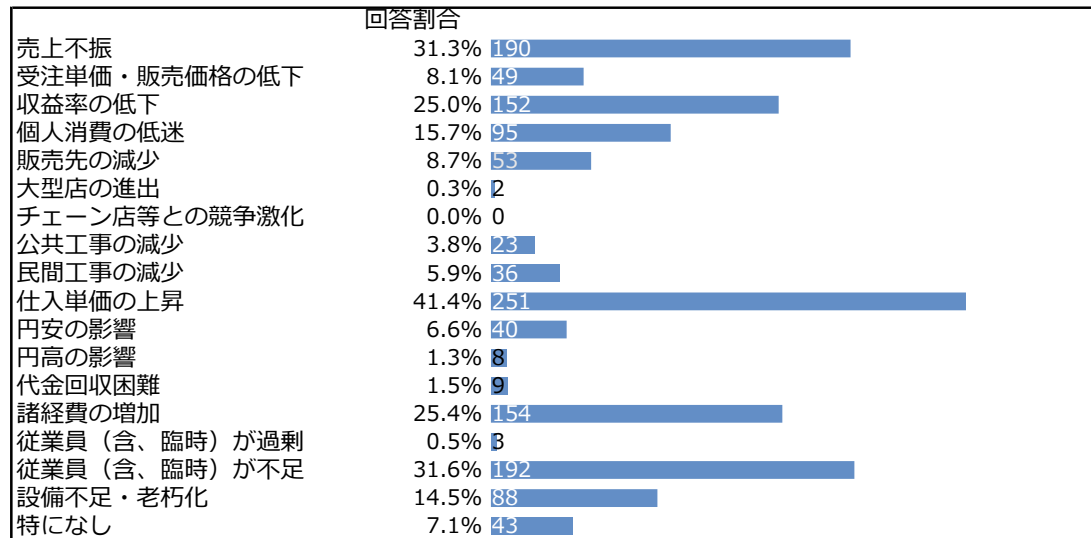
従事者の高齢化。【理容業】
諸経費は上昇したが致命的なほどではない。春に設備投資し受注量は若干増えたが予想を下回った。【障害者福祉】
徐々に運賃は上昇しているかと思うが、値上げは前期と昨年後期に一旦終了している為、本年後期は、あまり変化はない。【一般貨物の輸送・油機部品の保管】
消費者の財布のひもがより硬くなった。【生ジュース調理販売】
消費者の状況。【バレー教室】
消費者の波が大きい(動きのある時とない時)。【タクシー事業】
消費低迷。【カレー】
紹介が増えてきた。【健康管理】
障害者について、大企業が人手不足で健常者を増加させているので、法定雇用率の増加とともに採用が増えて、施設に入所する障害者が減少傾向にある。【厚労省認証、障害福祉サービス事業】
障害者雇用の環境変化。【フラワーアレンジメント事業、ステーションナリー事業、アウトソーシング事業】
新規患者の減少。【鍼灸マッサージ業】
新規顧客獲得が少なかった。【中国輸入の際に必要な許可申請(PSE認証、技適等)】
新首相の下で新しい風が吹くような気がする。【プレス機械関連の自動化・システム化と安全評価、品質保証活動】
人員の確保が非常に困難となっている。営業日、時間が思った以上にできない。時給のUPもたいへんである。【ラーメン店】
人件費の高騰による経営の圧迫。【障がい者福祉、障がい者グループホーム】
人件費の高齢化。【美容業】
人件費を政府の判断で上げることに不満。【学習塾】
人件費増、税(車税)に消費税に社会保険料。【賃貸不動産管理、不動産仲介】
人材の不足・特に中核となるべき人材の不足、DXの推進。【経理・人事業務のシェアサービス】
人材獲得困難。【大型特殊自動車および建設機械の修理点検車検整備】
人手不足。【貨物自動車運送】
人手不足が深刻。【廃棄物処理業】
人手不足が否めません。【セキュリティサービス事業】
人手不足の加速。【採用コンサルティング】
世の中の物価上昇に対して客先、メーカーの製造不振に伴う物流量の減少。【自動車部品】
設備の老朽化。【不動産賃貸業】
全体として景気感は引き続き慎重で、物価上昇に伴う派遣スタッフの生活コスト増・働き方の多様化が顕著です。一方で、受発注は概ね安定し、人材ニーズは即応性の高い人員配置が求められ、当社としてはスタッフ定着のために待遇・フォロー体制の強化を進めています。【労働者派遣業、機械設計受託及び請負業】
冬場で、来院数が低下。【全体の施術、健康サポート、ダイエットサポート】
同年前期に比べ減収した。入札方法が指名→一般に変わった為、応札門戸が拡大し、ギリギリの収益を見越した応札でも総じて難しい。【建物設備管理及び清掃業】
燃料費・外注費を含む原価の上昇。【産業廃棄物】
売上が減少しているにも関わらず、仕入れ単価の高騰や最低賃金が年々上昇していることで人件費のコントロールが難しくなっている 全体的に経費の圧迫により収益が減少し、店舗運営が厳しい状態が続く。【お好み焼き、もんじゃ焼き、鉄板焼き、自営業】
発注、受注に該当しない。【不動産】
発注減。【ITサービス・ソフトウェア開発】
不況。【寿司、和食】
不況。【居酒屋】
不動産価格の上昇、都心部はインバウンドが高値にしている。【不動産仲介業、不動産コンサルタント】
不変。【税理士事務所】
物価・人件費の高騰。【不動産賃貸】
物価の高止まり、水道光熱費、ガソリン価格、原材料費、上記に伴う個人消費の低迷。【墓石清掃、墓参代行、墓石クリーニング、墓石コーティング、墓石メンテナンス、石材特殊清掃(文化財等)、埋葬業務、他】
物価高。【鍼灸整体】

物価高。【障害福祉】
物価高で手が出なくなってる。【特殊施策】
物価高により個人消費が冷え込んでいる印象を受けます。【キッチンカーによるケータリング事業、イベント企画運営。】
物価高の影響を受け、主婦は自分の方は最後になる。来店期間が伸びる。【美容業】
物価高は、目に見えて上昇しています。現状では収益率の低下の影響は微少ですが、将来にやや不安がある。【電気保安管理業務受託】
物価高騰。【うなぎ、焼き鳥】
物価高騰、人手不足。【・土地の分譲、販売、仕入、・建売住宅の分譲、販売・住宅および住宅以外の建築物の建築請負・不動産売買、仲介、賃貸・建築設計・監理・インテリアコーディネート・リフォーム、エクステリア等】
物価高騰による経費上昇、人員不足。【廃棄物処理、建物清掃業、工業薬品販売業】
物価上昇、人件費の高騰。【中華レストラン】
物価上昇が非常に問題となっている。売上単価は変えられず、仕入、経費の上昇が止まらない。経営コストが上がり、このままでは継続して営業ができない。【損害保険、生命保険代理店、コンサルティング業】
未認証の車屋が多過ぎる。【車検・整備・板金・塗装・部品販売】
輸送費の上昇について社会全体の理解が必要。【機械部品、建設機械、設備、OA機器などの輸送】
来期の新卒採用に苦戦している。【人材派遣業】
来店客の減少、高齢化により来店出来なくなる。【美容業】
来店客数が減ってきている。いままでにない位です。【カット、カラーパーマ、ヘアエステ、着付け】
利用者の定着が想定よりも悪く、今後の課題。【就労継続支援b型】
利用者数が上がったものの介護給付費が上がらないため物価高騰に追いつかない。【介護事業】
良い人事の不足、人件費の増加。【行政書士、社会保険労務士業】
労働集約型事業を中心に展開している弊社にとっては慢性的な人材不足と人材採用難が今後の事業運営に於いて危機的状況になりつつあります。新規での脱労働集約型の事業展開を図る転換期を迎えています。【在宅介護サービス・医療機関向け事務支援サービス】
労務費の上昇に価格改定が追い付いていない。【警備業務請負】

## 経営上の問題点

### 単純集計

経営上の問題点(3つまで回答可、n=607)



### 製造業

今回調査を見ると、「収益性の低下」、「円安の影響」が増加し、「売上不振」、「設備不足・老朽化」が減少した。前期は緩和された円安の影響が再度上がってきており、収益性低下が懸念される。

	R6年10～12月 n=204	R7年1～3月 n=178	R7年4～6月 n=212	R7年7～9月 n=175	今回調査 n=148
売上不振	46.6%	52.8%	49.5%	50.9%	43.9%
受注単価・販売価格の低下	8.3%	9.6%	9.4%	10.3%	6.8%
収益率の低下	30.4%	31.5%	35.8%	29.1%	33.1%
個人消費の低迷	5.4%	2.8%	3.8%	4.0%	3.4%
販売先の減少	8.8%	9.6%	9.4%	8.0%	8.1%
大型店の進出	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	0.5%	0.6%	2.8%	2.3%	2.7%
民間工事の減少	2.5%	1.1%	4.2%	2.3%	3.4%
仕入単価の上昇	50.0%	54.5%	47.6%	44.0%	46.6%
円安の影響	13.7%	12.9%	10.4%	6.9%	9.5%
円高の影響	2.5%	2.2%	2.4%	1.1%	1.4%
代金回収困難	1.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.7%
諸経費の増加	19.6%	24.7%	23.6%	20.0%	22.3%
従業員(含、臨時)が過剰	1.0%	2.2%	0.5%	1.1%	0.7%
従業員(含、臨時)が不足	21.6%	16.9%	19.8%	26.9%	25.0%
設備不足・老朽化	24.0%	24.7%	18.4%	24.0%	20.3%
特になし	6.4%	2.8%	1.9%	4.0%	1.4%



## 経営上の問題点

### 建設業

前期と比較して、「仕入単価の上昇」「民間工事の減少」「公共工事の減少」が増加し、「収益率の低下」「諸経費の増加」が減少した。特に「収益性の低下」が大幅に減っており、収益性の改善が進みつつあるようである。

	R6年10～12月 n=172	R7年1～3月 n=140	R7年4～6月 n=139	R7年7～9月 n=140	今回調査 n=117
売上不振	23.8%	18.6%	27.3%	22.9%	22.2%
受注単価・販売価格の低下	7.0%	15.7%	11.5%	11.4%	10.3%
収益率の低下	24.4%	32.1%	25.2%	30.7%	17.1%
個人消費の低迷	5.2%	7.9%	3.6%	5.7%	5.1%
販売先の減少	5.8%	6.4%	5.8%	2.1%	2.6%
大型店の進出	0.6%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	12.2%	12.9%	15.8%	10.0%	14.5%
民間工事の減少	15.7%	13.6%	15.1%	15.0%	18.8%
仕入単価の上昇	51.7%	57.1%	49.6%	47.1%	52.1%
円安の影響	2.9%	2.1%	2.2%	2.1%	2.6%
円高の影響	1.2%	1.4%	0.7%	0.0%	0.9%
代金回収困難	2.9%	1.4%	1.4%	2.9%	0.0%
諸経費の増加	22.1%	25.7%	21.6%	23.6%	19.7%
従業員(含、臨時)が過剰	1.2%	0.7%	0.7%	0.0%	0.0%
従業員(含、臨時)が不足	48.3%	42.9%	48.2%	52.9%	50.4%
設備不足・老朽化	5.2%	6.4%	7.2%	7.9%	7.7%
特になし	6.4%	4.3%	5.0%	4.3%	6.8%

### 小売業・卸売業

「諸経費の増加」「販売先の減少」「従業員が不足」「民間工事の減少」が増加し、「売上不振」が減少した。売上は戻りつつあるようだが販売先の減少が気になるところである。

	R6年10～12月 n=121	R7年1～3月 n=109	R7年4～6月 n=98	R7年7～9月 n=105	今回調査 n=75
売上不振	41.3%	33.9%	43.9%	39.0%	32.0%
受注単価・販売価格の低下	6.6%	3.7%	7.1%	5.7%	5.3%
収益率の低下	28.9%	26.6%	25.5%	24.8%	24.0%
個人消費の低迷	24.8%	33.0%	28.6%	38.1%	38.7%
販売先の減少	13.2%	15.6%	14.3%	17.1%	24.0%
大型店の進出	2.5%	4.6%	2.0%	1.9%	0.0%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	0.8%	1.8%	0.0%	1.0%	0.0%
民間工事の減少	0.0%	0.9%	2.0%	3.8%	6.7%
仕入単価の上昇	43.0%	50.5%	42.9%	40.0%	38.7%
円安の影響	12.4%	16.5%	13.3%	10.5%	12.0%
円高の影響	5.0%	1.8%	4.1%	2.9%	0.0%
代金回収困難	2.5%	0.9%	1.0%	3.8%	6.7%
諸経費の増加	18.2%	18.3%	24.5%	21.0%	28.0%
従業員(含、臨時)が過剰	2.5%	0.9%	2.0%	0.0%	2.7%
従業員(含、臨時)が不足	22.3%	22.9%	20.4%	14.3%	20.0%
設備不足・老朽化	9.9%	12.8%	8.2%	9.5%	12.0%
特になし	3.3%	2.8%	5.1%	5.7%	2.7%

## 経営上の問題点

### 飲食業・サービス業

「売上不振」「個人消費の低迷」「受注単価・販売価格の低下」が増加し、「諸経費の増加」「収益率の低下」が減少した。収益率は改善傾向だが個人消費の低迷が懸念される。

	R6年10～12月 n=337	R7年1～3月 n=300	R7年4～6月 n=321	R7年7～9月 n=303	今回調査 n=267
売上不振	27.0%	34.0%	30.2%	23.8%	28.1%
受注単価・販売価格の低下	5.0%	7.3%	5.9%	6.6%	8.6%
収益率の低下	29.4%	30.0%	25.5%	29.0%	24.3%
個人消費の低迷	16.3%	16.3%	15.3%	14.9%	20.6%
販売先の減少	6.8%	5.7%	6.9%	9.9%	7.5%
大型店の進出	0.9%	0.7%	0.6%	1.0%	0.7%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	1.2%	2.0%	1.6%	3.3%	0.7%
民間工事の減少	0.6%	0.7%	1.6%	2.0%	1.5%
仕入単価の上昇	35.0%	37.0%	32.1%	33.3%	34.5%
円安の影響	6.5%	6.7%	4.0%	2.6%	5.2%
円高の影響	1.2%	1.3%	1.2%	1.3%	1.9%
代金回収困難	0.9%	2.3%	2.2%	1.3%	1.1%
諸経費の増加	31.5%	32.7%	34.3%	35.0%	28.8%
従業員(含、臨時)が過剰	0.6%	1.7%	0.9%	0.7%	0.0%
従業員(含、臨時)が不足	35.3%	28.7%	31.8%	32.0%	30.3%
設備不足・老朽化	13.9%	13.0%	15.6%	17.2%	15.0%
特になし	9.5%	8.0%	9.7%	11.6%	11.6%